

●はじめに

松原運動公園に市内第2号として整備予定の「インクルーシブな子ども広場」の整備について考えるワークショップの第三回が開催されました。地域のみなさま、障がい当事者や障がいのあるお子様をお持ちの保護者の方々から、多くの意見やアイデアをいただきました。お忙しい中お集まりいただいた皆様、誠にありがとうございました。

「インクルーシブな子ども広場」

誰もが お互いを理解し
 安心して笑顔で
 自分らしく遊ぶことができる場所



ワークショップの流れ

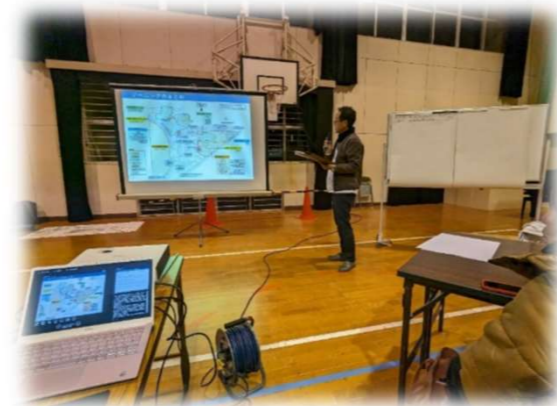
- 第一回**
 「松原運動公園とインクルーシブな子ども広場について知ろう」
 令和5年10月8日(日) 10:00~12:00
 @松原運動公園野球場会議室+現地
 【学びと現地確認による課題探し】
- 第二回**
 「こんな子ども広場があったらいいな」
 令和5年10月17日(火) 19:00~21:00
 @柏原小学校 体育館
 【アイデア出しとゾーニング】
- 第三回**
 「こんな子ども広場にしよう!!」
 令和5年11月21日(火) 19:00~21:00
 @柏原小学校 体育館
 【計画案のまとめ】
- 第四回**
 「みんなで楽しめる子ども広場ができたよ」
 令和5年12月19日(火) 19:00~21:00
 @柏原小学校 体育館
 【最終計画案の確認】



発表の様子

●前回までのおさらいと「たたき台」

これまでのワークショップでのインクルーシブな子ども広場についての考え方や整備指針などの学びの内容を振り返るとともに、第二回のワークショップによるゾーニングのまとめをもとに検討を行った【計画案の「たたき台」】を事務局から提示し、全班の意向で、既存のわんぱく広場内に、ひとり遊びゾーンを設けることになりました。



前回のおさらい

●グループワーク

「たたき台」をもとに要望や気になるところなどの意見を出し合いました。最後にグループごとに発表し、全体でディスカッションを行って意見を共有しました。



グループワークの様子



お子さんの見守りスペース

第四回ワークショップのご案内



第三回のグループワークの成果をもとに事務局から提示する「最終案」を確認し意見交換を行います。また、公園の使い方、ルール、意識することなど共通認識を深めるための話し合いを行います

日時：令和5年 12月 19日 (火)
 19時~21時 (2時間程度)
 場所：柏原小学校 体育館

●お申込み/お問合せ
 福岡市公園部整備課 担当：山口、中川
 〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1-4F
 ☎ koenseibi.HUPB@city.fukuoka.lg.jp
 ☎ 092-711-4410

介助が必要な方やお子様連れでも安心してご参加いただけるように見守りスタッフやキッズスペースを配置します。必要な方は申込時にお知らせください。

12/12 (火) まで
参加者募集中
 お気軽にご参加ください！

グループワークのまとめは裏面へ



計画案の「たたき台」に対するご意見

凡例

グループワーク・全体ディスカッションでのご意見
赤文字 = たたき台や他グループとの相違点



・既存の木を活かす
 ・ハンモックや鳥の水飲み場を設ける

・水遊び近くに着替えるのスペースが必要

●ひとり遊びゾーン (静)
 ⇒【静かに遊べる施設を配置】
 ・水遊び (流れ、ミスト)
 ・パネル遊具 (ユニバーサルデザイン)
 ・隠れる遊具 (ひっそり、落ち着き)

・駐車場西側からひとり遊びゾーン、西側トイレへの車いすアクセスが必要

・立体駐車場
 ・クラウドファンディングによる施設を設ける (屋上パーキング+トイレ+雨の日も遊べるフリースペース+管理者用)

・身障者用駐車区画を増やす
 ・身障者駐車区画はトイレ側に多く設ける

●交流遊びゾーン
 ⇒【インクルーシブな子ども広場に位置づけ】
 ・かけっこ、鬼ごっこ、ボールあそび (身体的遊び/社会的遊び)
 ・管理運営要件等

【敷地造成について】
 ・遊び場の高さをなるべく駐車場にそろえる
 ・地形は平らにしてほしい
 ・斜面があっても大丈夫、デコボコちょっと急な坂高低差は逆に楽しめるのではないかと
 ・スロープが遠回りになっている。駐車場からすぐ遊び場に行きたい

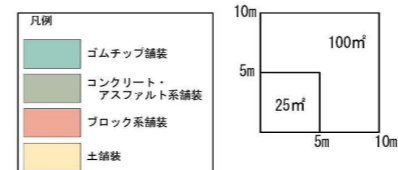
【スロープ・園路】
 ・スロープは上り下りを楽しむような工夫が必要
 ・園路が楽しくなる仕掛けによりバリアを楽しませると良い
 ・暑さが和らぐ素材の園路
 ・途中に休憩やちょっとした遊び場があると良い

・駐輪場はトイレ近くなどに分散

●自然遊びゾーン (にぎやか)
 ⇒【自然を残す】
 ・樹木整姿 (剪定、枯木・枯枝除去)
 ・樹木の見直し (必要に応じて間引き)
 ・通り抜けできるように階段を整備 (リスクあり)

●トイレ
 検尿：見通しをよく、洋式
 指針、百道：広く、和式より洋式
 ⇒【便所ブース改良、周囲を広げる】

●自転車置き場
 指針、百道：自転車が入って来ないように
 ⇒【公園出入口付近に設置】



【遊具エリア】
 ・幅広いすべり台、車いすごと入る遊具
 ・人工芝の斜面遊び
 ・地面遊びの広いスペース (遊具のないスペース) も必要
 ・駐車場から近いところに小さな子どもたちが遊べる場所や砂場があると良い

【サイン】
 ・スロープでスケボー、キックボードなどをしてしまうので、譲り合いやインクルーシブ広場がわかるサインが必要
 ・多様な人々を理解する情報や公園づくりの思いを載せたサインを置く
 ・触地図/全体を把握できるサイン

【その他】
 ・訪れたら人とのつながりができる公園にしたい
 ・日陰をそれぞれの遊び場につくる
 ・乳幼児用デッキスペース/待ち順のデザイン/年齢に応じた遊び/園路に点字ブロック/など様々な利用者に合う施設
 ・トイレをリニューアルしてあらゆる人が利用したくなる施設にする
 ・既存サクラの周りは砂場にしてはどうか
 ・出入口はベンチなど配置して子どもの動きをさりげなくストップするデザインにする
 ・エリア外の西側駐車場からのアクセスも検討してはどうか
 ・交流遊びゾーン一番北側の三角部分を駐車場にしてはどうか

【ひとり遊びゾーン】
 ・ミニシーソー、音の出る遊具が良い
 ・ユニバーサルな砂場は必要
 ・ひとり遊び+小さな子どもも楽しめる遊具
 ・小さい子の遊び場は奥でいいの？

今回いただいたご意見を反映したプランを、次回「最終案」として提示します

「最終案」をまとめる上でのポイント

ワークショップでいただいたご意見、ご要望の中で、計画案の「たたき台」との相違点、および、グループ間の相違点について、下記の内容に留意しながら最終案を作成して参ります。

【遊び場(交流遊びゾーン)の地盤高、地形、配置について】
 第三回ワークショップでは相反するご意見・アイデアもいただきました。これまでの利用者やこれまで訪れることが難しかった利用者を含めた様々な利用者への配慮をさらに深めて、双方の意図をくみ取った折衷案を作成します。

【車いすや小さなお子様連れ等のアクセスについて】
 既存の園路、公園出入口、身障者駐車スペース、芝生広場、トイレ等を含めた全体的な公園利用者の動線に配慮しつつ、限られた公園スペースの中で無理のないアクセスを確保します。

【駐車場、大幅な地形の改変について】
 現場条件、各種法令(福祉のまちづくり条例・公園設計指針など)、管理上の懸念等に留意した形で、いただいたご意見を最終案に落とし込みます。

第四回の案内は表面へ